

# 私たちがつくる 持続可能な世界

SDGsをナビにして



## 2030年 — 社会の主役となっている君たちのミッション

貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇…

人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面している。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまうと言われている。そんな危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てた。それが「**持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)**」である。

SDGsは、「持続可能な世界」を実現するための、いわばナビのようなものである。人類はいま、そのナビが示す方向に進めているだろうか？ そして、君自身はどうだろうか？

様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいのか。また、将来自分はどのように目標達成に貢献できるだろうか。」それを考えることが、2030年の世界で主役となって活躍している君たちに課せられたミッションである。

さあ、持続可能な世界を創るために、  
一歩を踏み出そう！

SDGs  
とは？

- ◆ 2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
- ◆ 国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めた全ての人が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている
- ◆ キーワードは「誰ひとり取り残さない」



年 組



unicef

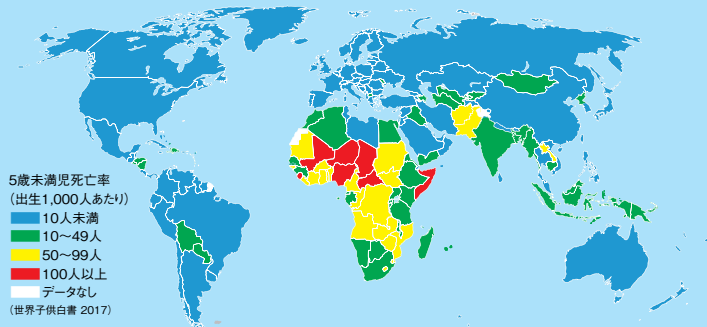
生まれる環境は選ぶことができない。世界にはどのような不平等があるのか見てみよう。

## 5歳になる前に亡くなる子どもが多い国 赤色 黄色 はどのような国でしょう？

年間540万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。<sup>\*1</sup> 約6秒に1人、世界のどこかで幼い命が失われているのです。



6,300万人の小学校就学年齢の子どもたちが、学校に通えずにいます。<sup>\*2</sup> 「女の子だから」「貧しいから」「障がいがあるから」、理由は様々です。



極度の貧困状態\*の下で暮らしている人は7億6,700万人、そのうち約半数が子どもで3億8,500万人にのぼります。多くは南アジアとサハラ以南のアフリカに集中しています。<sup>\*3</sup>

\*国際基準で定められた1日1.9米ドル未満の生活



日本のように安全な水を必要な時に家で利用できない人が22億人。このうち1億4,400万人は池や河川、用水路などの水をそのまま使っています。<sup>\*4</sup>



排泄物を衛生的に処理できるトイレが家にない人は42億人。このうち6億7,300万人以上が、草むらなど屋外で用を足しています。<sup>\*5</sup>



## 世界の赤ちゃんとお母さんを守る日本発祥の「母子健康手帳」

日本は、乳児死亡率が世界で一番低い国の一つです。一役買っているのが「母子健康手帳」。妊娠・出産から赤ちゃんが6歳になるまで、母子が継続してケアを受けるための健康記録です。予防接種や健診、成長のようすが一目でわかり、問題があったときにも早く発見し、対処することができます。

日本は政府開発援助(ODA)を活用して20年ほど前から、アジア・アフリカ諸国で母子健康手帳を広める国際協力を進めています。お母さんや家族の保健の知識を向上させ、妊産婦と乳幼児の健康状態を改善していく。母子健康手帳にはそんな知恵が詰まっています。

生まれる環境は誰も選ぶことができません。自分ではどうしようもないことで、将来の制約を受ける、そんな不平等を克服するための、ひとつの取り組みです。

### 開発途上国の多くのお母さんと赤ちゃんが直面している問題にかかわるデータ

<産前・産後のケアの不足> 妊娠・出産中の合併症が原因で死亡する女性は年間約30万3,000人(1日約830人)もいます。<sup>\*6</sup>

<栄養不良> 世界の5歳未満児の21.9%(1億4,900万人)が日常的に栄養を十分に取れず、発育阻害の状態にあります。<sup>\*7</sup> 乳幼児期の栄養の不足は、身体だけでなく知能の発達も遅らせ、その影響は生涯にわたるものとなります。



JICA (国際協力機構) が支援するパレスチナの母子健康手帳

格差や貧困は、途上国だけでなく、日本も含めた先進国の中でも問題になっています。



性別を理由に機会の不平等が起こることがあります。例えば、教育を受けられる女子の割合が男子よりも低い国も多くあります。また、国会議員に占める女性の割合は世界的に低く(2017年12月時点で、世界平均は23.6%(日本は10.1%)<sup>\*8</sup>)、男女が意思決定の過程に積極的に参画し、多様な意思が政治や政策に反映されていくようにすることはとても重要です。日本政府も「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度となるよう期待する」との目標を掲げ、取り組みを進めています。



先進国の子どもたちの状況を子どもに関連の深いSDGsの目標について比較したユニセフの調査によれば、日本は貧困の撲滅については23位(37カ国中)、格差の縮小については32位(41カ国中)でした。<sup>\*9</sup>

先進国の貧困を表すのによく使われる「相対的貧困」と、開発途上国の貧困を表すのによく使われる「絶対的貧困」にはどのような違いがあるかな？



## 企業の力で社会の課題を解決

医療、安全な水や衛生、十分な栄養など、世界には「生きていく上で最低限必要なものを手に入れられるかどうか」にさえ不平等があります。そうした不平等を、企業が持っている技術力や専門性を生かして克服しようとする取り組みが広がっています。

例えば、貧しい人でもまかなえる価格で設置できるトイレや安価な医薬品の開発と普及、マラリア予防の蚊帳の開発、貧しい地域での浄水・給水事業、乳幼児の栄養改善食の開発など、日本企業も様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

携帯電話やドローン、衛星技術など、企業が開発する新しい技術も、こうした課題解決にますます貢献すると期待されています。



HIV/エイズ検査の検体を都市の病院に届けるドローン。(マラウイ) ユニセフと企業が協力している。

<sup>\*1</sup> Levels and Trends in Child Mortality 2018, UNICEF <sup>\*2</sup> One in Every Five Children, Adolescents and Youth is Out of School, UNESCO他, 2018 <sup>\*3</sup> Ending Extreme Poverty: a Focus on Children, UNICEF, 2016 <sup>\*4</sup> 4.5 Progress on Drinking Water, Sanitation and Hygiene: 2000 - 2017 : Special focus on inequalities, WHO, UNICEF <sup>\*5</sup> Maternal Mortality, WHO (2018年2月) <sup>\*6</sup> Joint Child Malnutrition Estimates - 2019 edition, UNICEF, WHO, The World Bank <sup>\*7</sup> 内閣府男女共同参画局, 2017 <sup>\*8</sup> ユニセフ「レポートカード14 未来を築く先進国の子どもたちと持続可能な開発目標(SDGs)」, 2017



SDGsは、平和で、暴力や差別のない世界を目指しています。

現在の世界には、どのような問題があるでしょう？



## 児童労働

推定1億5,200万人の子どもたちが働かされています。<sup>※1</sup>多くが十分な教育を受けることができず、そのため大人になってからも貧困から抜け出すのが難しくなります。



© UNICEF/UN067752/Sakhin



## 児童婚

15歳未満で結婚した女性が世界に推定2億5,000万人います。<sup>※2</sup>妊娠・出産のリスクが高まるほか、教育機会が奪われることなどにより将来や次世代にも影響が及びます。



## わたしたちの日常にある子どもへの暴力

**虐待** 2～4歳児の約4分の3が、家庭内で体罰や精神的虐待を受けているとの調査結果があります。<sup>※3</sup>日本でも、子どもが虐待される事件が報道されることがあります。

**ネットの危険** インターネットは差別的な書き込みやいじめの場にもなります。また、日本で年間1,500人以上の子どもがSNS等を通じて性犯罪等の事件に巻き込まれています。<sup>※4</sup>

**いじめ** 13～15歳の子どもの約3人に1人がいじめを経験しているとの調査結果があります。<sup>※5</sup>



## 世界の紛争と子どもたち

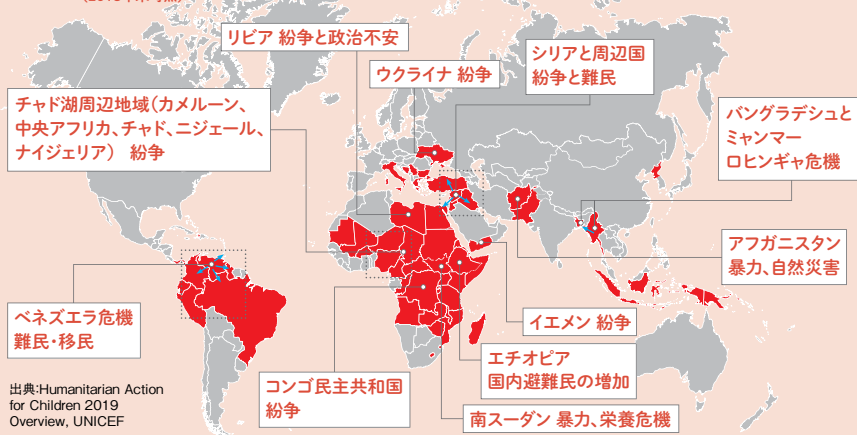
**暮らし** 紛争下に暮らす子どもたちは、恐怖にさらされ、健康に育つ機会や教育を受ける機会を奪われています。紛争下の約2,700万人が学校に通っていません。<sup>※6</sup>

**巻き込まれる子ども** 戦闘員、料理係、スパイ役、メッセンジャーなどとして武力紛争に巻き込まれている子どもは、世界で数万人いると推定されています。

**移動する子ども(移民・難民)** 2015年には約5,000万人の子どもが故郷を奪われ、うち約2,800万人は紛争が原因でした。<sup>※7</sup>子どもだけで国境を越える数も増加していて、2015～16年には約80カ国で少なくとも30万人。<sup>※8</sup>移動には海での遭難、人身売買や暴力など多くの危険がともないます。

## 世界の人道危機 (2018年末時点)

世界には多くの紛争があり、その原因は様々です。これまでに学んだ紛争がどのような要因で起きたのか思い出してみましょう。



## 様々な差別

世界には、性別、障がい、人種、民族、社会的立場、宗教など様々な理由で差別される人々がいます。差別は暴力にもつながりやすく、差別をなくすため、条約や法律などが作られ、取り組みが進められています。児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)は、どのような理由でも子どもは差別されないことを定めています。

日本でも、差別をなくすために…

外国人への差別とも受け取れる応援が問題となったサッカーチームは、「差別撲滅」を宣言し、チームとサポーターが協力して取り組んでいます。



## 難民の少女、自ら親たちを説得

2013年、紛争中のシリアから家族とともにヨルダンに逃れたマズーン・メレハンさん。「教育こそが人生の鍵だとわかっていたので、国を出る時に持っていた唯一の荷物は、教科書でした」

難民キャンプで暮らし、シリア難民の子どもたちが児童婚や児童労働を強いられるのを見て、キャンプ内のテントを訪ね歩き、子どもを学校に通い続けさせるよう親たちを説得しました。2017年、19歳でユニセフの最も若い親善大使に任命され、紛争下の特に女子の教育の重要性を訴え続けています。



© UNICEF/UN060339/Sakhin



## 平和と安全・安心社会の実現

日本は、世界各地で、①社会資本の復興、②経済活動の復興、③政府の統治機能の回復、④治安強化を柱に平和構築を支援しています。例えば、40年近く紛争が続いたフィリピン南部のミンダナオ島では、和平交渉プロセスに貢献し、和平合意後は、新たな自治政府の体制づくり、人々の生活の向上、中長期の地域開発を支援しています。

## イノベーションで子どもの課題を解決

世界では5歳未満の約4人に1人が、出生登録されていません。<sup>※9</sup>出生登録がないと、保健サービスや教育が受けられないことや、児童労働につながることもあります(なお、日本では無戸籍の子どもであっても、様々な支援が行われています)。ウガンダでは、ユニセフが協力して携帯電話を活用した出生登録の仕組みが導入され、登録率が2011年の30%から2016年には推定69%に改善しました。<sup>※10</sup>また、紛争や災害時に、家族と離ればなれになってしまった子どもの保護・再会にも、携帯電話を使った仕組みが使われています。



© UNICEF/UN012562/Adriko

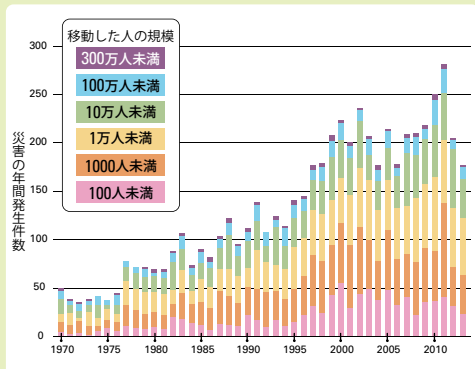


© UNICEF/UN145732/Eslebo

※1 Global Estimates of Child Labour - RESULTS AND TRENDS, 2012-2016, ILO, 2017 ※2 Ending Child Marriage: Progress and prospects, 2014, UNICEF ※3.5 A Familiar Face: Violence in the lives of children and adolescents, 2017, UNICEF(それぞれ94カ国と149カ国のデータ。どちらも日本は含まれていません。) ※4 警察庁「平成30年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況」 ※6 Education Uprooted, 2017, UNICEF ※7 Uprooted: The growing crisis for refugee and migrant children, 2016, UNICEF ※8 A Child is a Child: Protecting children on the move from violence, abuse and exploitation, 2017, UNICEF ※9 UNICEF Data 2017年12月 ※10 Situation Analysis of Children in Uganda, 2015, UNICEF他、ユニセフ資料

## 今地球上で起こっている気候変動や環境問題。どのような課題と結び付いているでしょう？

住民の移動を余儀なくさせる災害の年間発生件数(1970～2013)



グラフ: Unless we act now: The impact of climate change on children, UNICEF, The Internal Displacement Monitoring Centre (IDMC), Disaster-related displacement risk: measuring the risk and addressing its drivers, 2015



頻発する干ばつ、砂漠化、スーパー台風、豪雨など、増加している災害は、やむなく移動を強いられる人、食糧危機にさらされる人が増える原因にもなっています。

人口増加、製造業、水力発電、生活用水への水需要の増加、気候変動による利用可能な水資源量の変化などにより**深刻な水不足**が起きています。水資源の取り合いが**紛争**に結び付く危険もあります。

特に途上国の都市部で深刻な**大気汚染**が発生しています。

原子力発電には温室効果ガスを排出しない利点がある一方で、**放射性廃棄物の処分**という課題があります。

大気中の**温室効果ガス**が増え続けています。温暖化による海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えています。また、感染症を媒介する生物の生息域が広がり、例えば、**マラリア、デング熱、ジカ熱**など、蚊が媒介する病気の感染地域が広がることも懸念されています。

プランテーションや土地の開墾のために、**熱帯雨林や森林が伐採**され、動植物が**絶滅**したり、生物多様性が失われたりしています。



## 日本のBOSAI(防災)を世界で役立てる災害に備え、復興する力を

自然災害の被害を減らすための備えと、被害から少しでも早く復興する力が世界で注目されています。

災害が多く、長年防災に取り組んでいる日本には、様々な技術や仕組み、経験があります。これらを世界の自然災害被害の減少に役立てていくために防災に関する国際協力が活発に行われています。これまで3回の国連防災世界会議が横浜・神戸・仙台で開催されるなど、世界の防災力強化のために日本は多くの貢献をしています。

福島県相馬市では、2011年の震災の経験を子どもたちが「生きる力」を学ぶ機会として活用しようと「ふるさと相馬子ども復興会議」を開きました。子どもたちがふるさとの今と未来を考えて学習、将来の災害の可能性を知り、ふるさとの備えの有効性を検証しています。仙台で開催された国連防災世界会議のパブリックフォーラムでは、相馬市立飯豊小学校の6年生がその取り組みを発表しました。



## 「海洋」の恵みは何とつながっている？

地表の7割を占める海。津波や台風など大きな災害をもたらすこともありますが、日々の食事に欠かせない海産物を供給するだけではなく、豊かな生態系や海水温が気候の安定に大きな役割を果たしていることも分かっています。

近年、大量のごみや汚染物質の海への流出、資源の乱獲、海洋酸性化、サンゴ礁やマングローブ林の減少、海水温の上昇など、海洋は危機的な問題に直面しています。人類共通の財産である海洋の豊かさを守り利用することは、SDGsの17の目標のどれとつながっているか考えてみましょう。



## このマークはどんな意味？

買い物の時など、こんなマークのついた商品を見たことがありますか？ それぞれどのような商品であることを示しているか調べてみましょう。



## パーム油をめぐる話

アブラヤシから採れるパーム油。菓子など様々な加工食品や洗剤に使われています。原材料に「植物油脂」と表示され気づきにくいのですが、私たちはこの便利な油を日々摂取しています。同時にパーム油の生産のために広大な熱帯雨林が伐採されていることもあまり知られていません。アブラヤシの栽培に適した赤道下のマレーシアやインドネシアの熱帯雨林には、ゾウやオランウータンをはじめ多種多様な動植物が生きています。熱帯雨林は、パーム油生産のため広大なアブラヤシのプランテーションに変わり、動植物は生きる場を奪われ、多様性は失われています。問題の解決に向けて、パーム油の生産者に加え、油を売り、買う企業やNGOなどが一緒になって、持続可能な形でパーム油を使えるようにするための取り組みが2000年代に入って活発になっています。私たちはどのようなものを食べ、使っているのか、調べてみましょう。





ミッション!

「持続可能な世界にしていけるために、これから何を考えるのかを考えよう。」

ミッション達成めざして STAGE 1 ～ STAGE 4 のステージに取り組もう。

STAGE 1 SDGsの目標は以下の17項目。これまでに学習したことを思い出しながら、優先的に取り組んでいきたいと思う目標を、1～3まで順位をつけてみよう。また、その理由も書いてみよう。

|    | 目 標                                                                                             | 順 位 | 理 由 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-----|
| 1  | 貧困をなくそう<br>「あらゆる場所のあらゆる形態の <b>貧困</b> を終わらせよう」                                                   |     |     |
| 2  | 飢餓をゼロに<br>「 <b>飢餓</b> を終わらせ、全ての人が一年を通して <b>栄養</b> のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう」             |     |     |
| 3  | すべての人に健康と福祉を<br>「あらゆる年齢の全ての人々の <b>健康的</b> な生活を確保し、 <b>福祉</b> を促進しよう」                            |     |     |
| 4  | 質の高い教育をみんなに<br>「全ての人が受けられる公正で質の高い <b>教育</b> の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう」                      |     |     |
| 5  | ジェンダー平等を實現しよう<br>「 <b>男女平等</b> を達成し、全ての女性及び女兒の能力の可能性を伸ばそう」                                      |     |     |
| 6  | 安全な水とトイレを世界中に<br>「全ての人が安全な <b>水とトイレ</b> を利用できるよう衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう」                      |     |     |
| 7  | エネルギーをみんなにそしてクリーンに<br>「全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的 <b>エネルギー</b> を利用できるようにしよう」                         |     |     |
| 8  | 働きがいも経済成長も<br>「誰も取り残さないで持続可能な <b>経済成長</b> を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある <b>人間らしい仕事</b> に就くことができるようにしよう」 |     |     |
| 9  | 産業と技術革新の基盤をつくろう<br>「 <b>災害に強いインフラ</b> を作り、持続可能な形で産業を発展させ <b>イノベーション</b> を推進していこう」               |     |     |
| 10 | 人や国の不平等をなくそう<br>「国内及び国家間の <b>不平等</b> を見直そう」                                                     |     |     |
| 11 | 住み続けられるまちづくりを<br>「安全で災害に強く、持続可能な <b>都市</b> 及び <b>居住環境</b> を実現しよう」                               |     |     |
| 12 | つくる責任 つかう責任<br>「持続可能な方法で <b>生産</b> し、 <b>消費</b> する取り組みを進めていこう」                                  |     |     |
| 13 | 気候変動に具体的な対策を<br>「 <b>気候変動</b> 及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう」                                          |     |     |
| 14 | 海の豊かさを守ろう<br>「持続可能な開発のために <b>海洋資源</b> を保全し、持続可能な形で利用しよう」                                        |     |     |
| 15 | 陸の豊かさを守ろう<br>「 <b>陸上の生態系</b> や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう」                |     |     |
| 16 | 平和と公正をすべての人に<br>「持続可能な開発のための <b>平和的</b> で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人が <b>法や制度</b> で守られる社会を構築しよう」      |     |     |
| 17 | パートナーシップで目標を達成しよう<br>「目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて <b>世界のみんな</b> で協力しよう」                      |     |     |

※ここに掲載されている17の目標は、外務省の仮訳を参考に、教材のためにわかりやすく意識したものです。

STAGE 2 班やクラスの仲間とそれぞれが選んだ目標や、その目標を選んだ理由を話し合ってみよう。

これからの社会を、持続可能でよりよいものとするためにはどうしたらよいだろう。  
話し合った内容をもとに、これから解決策を考えたいと思った目標や課題を書き出してみよう。

取り組んでいきたい目標や課題

取り組んでいきたい目標や課題についてレポートを作成してみよう!

設定した課題や目標について、さらに詳しく調べて、自分の考えをレポートにまとめてみよう。  
レポートの最後には、課題の解決や目標の達成に向けた「行動宣言」を書いてみよう。課題を考えるときは「自分で解決できること／他の人や社会全体と協力して解決できること」「地域の課題／世界の課題」、解決策を考えるときは「今できること／将来取り組みたいこと」など、様々な視点から考えてみよう。まとめた後に、発表や、意見交換をすることでさらに考えを深めていこう。



「人のためになるようなテクノロジーの仕事に就きたい!」

エリフ・ビルギンさん(16歳 トルコ)

2年間かけて、本来なら廃棄されるだけのバナナの皮から環境にやさしいバイオ・プラスチックを開発しました。



「規格外の野菜で作った国産飼料で、純国産の豚肉を生産!」

北海道美幌高等学校 生産環境科学科

町の特産品の野菜(じゃがいも、カボチャ、にんじん)の中で、規格外として廃棄される野菜で豚の飼料を開発。国産飼料で育てられたブランド豚の生産、商品開発に取り組みました。また、豚のふんを堆肥にし、特産品の栽培に活用。循環型養豚経営を構築しました。



「目が不自由な人がかけている眼鏡をもっと役立つものにしたい!」

アナンさん(中学生 インド)

目の不自由な人が周囲の状況が分かるよう、超音波を使って周囲を感知できる機能の付いた眼鏡を発明しました。廃棄された携帯電話の部品などを使って作られたこの眼鏡、大学の先生とも協力して更に改良が進められています。



「子どもたちにとってよりよい世界をつくりたい!」

イングリッドさん(14歳 ブラジル)

ブラジルに来る難民の子どもたちにおもちゃや本を寄付する活動を通して、難民の子どもたちの生きる権利や遊ぶ権利を守ろうとしています。イングリッドさんはSNSを使ってこうした活動を伝え、社会を変えたい仲間とつながっています。



「島の美しい自然を守るためにレジ袋をやめよう!」

ムラティ(10歳)・イザベル(12歳)姉妹(インドネシア)

2018年までにバリでのレジ袋使用を廃止するよう市長に約束してもらうために、請願書の作成、ビーチの清掃活動などを実施、彼女たちの願いが受け入れられました。



世界には、世界を変えようと一歩を踏み出した仲間たちがたくさんいるよ。どんなことをしているのか見てみよう!



行動宣言:2030年にむかって、君たちがしていきたいこと。

行動宣言

この行動宣言はSDGsのどの目標につながっているだろう。下の目標のアイコンに○をつけてみよう。



発展

それぞれの行動宣言を発表しあおう!そして、さらに深く話し合ってみよう!

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための協力者会議」

及川 幸彦 東京大学海洋アイランド海洋教育促進センター主幹研究員

大谷 美紀子 弁護士 国連子どもの権利委員会委員

久木田 純 関西学院大学SGU招聘客員教授(元UNICEFカザフスタン事務所代表)

竹原 真 全国中学校社会科教育研究会会長 江東区立深川第四中学校長

田中 治彦 上智大学総合人間科学部教育学科教授

内藤 徹 前国際協力機構(JICA)広報室地球ひろば推進課長

早水 研 日本ユニセフ協会専務理事

樋口 雅夫 前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

甲木 浩太郎 前外務省国際協力局地球規模課題総括課長

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための作業部会」(座長 竹原 真)

金城 和秀 東京学芸大学附属世田谷中学校(都中社研 公民専門委員)

中野 英水 板橋区立赤塚第二中学校(都中社研 地理専門委員)

藤田 琢治 練馬区立大泉国中学校(都中社研 公民専門委員)

※敬称略。五十音順。

事務局:公益財団法人 日本ユニセフ協会 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス ☎ 03-5789-2014

発行:2018年9月 改訂版発行:2019年9月

© 日本ユニセフ協会



リソナグループ

本副教材は、リソナグループからの支援により印刷・配布されています。

